

生徒実行委員会を中心にした 京都府の高校生おもてなし

全国高校生伝統文化フェスティバルにおいて、全国から来ていただく皆さんを京都へお迎えするにあたり、様々なおもてなしを高校生自らが考え、京都ならではの「おもてなし」をします。

＜主な活動内容＞

- ・ 広報活動（SNS発信、メインビジュアルデザイン選考）
- ・ 出演記念品デザイン
- ・ リハーサル運営
- ・ 交流会運営
- ・ 当日受付、会場案内、舞台運営 ほか

● おもてなし隊（109名）

京都府立北稜高等学校、京都府立鳥羽高等学校、京都府立嵯峨野高等学校、
京都学園高等学校、京都西山高等学校

～京都の高校生が一丸となって、
全国高校伝フェスをサポートする
とともに、おもてなし隊により、
全国の高校生をお迎えします～

おもてなし隊の高校生は、11月
にプロの接遇アドバイザーから
指導を受けて、当日に臨みます



● 生徒実行委員会（11名）

おもてなし隊の代表メンバーで結成。会議等で意見を出し合い、広報活動を中心に自らの力で考え、昨年度以上の「京都府のおもてなし」を行います。

〈生徒実行委員会〉

委員長	山田 ひとみ（京都府立北稜高等学校）		
副委員長	野村 菜々恵（京都府立北稜高等学校）		
〃	和多 さくら（京都府立北稜高等学校）		
〃	中田 美玖（京都西山高等学校）		
委員	内藤 聖馬（京都府立鳥羽高等学校）	森田 智大（京都府立鳥羽高等学校）	
	松田 彩葉（京都府立嵯峨野高等学校）	西川 花蓮（京都府立嵯峨野高等学校）	
	奥村 唯葉（京都学園高等学校）	芳田 梨湖（京都学園高等学校）	
	村田 葵（京都西山高等学校）		

伝統芸能選抜公演

～歓迎公演～

ちゅうよう げっか こじょう

〈中庸・月下の古城〉 京都府立園部高等学校 吟詠剣詩舞部

校舎が園部城跡に建てられ、今も残る城門を校門とし、130年を超える歴史を持つ学校。平成18年には京都府立では2校目となる公立中高一貫校となり、附属中学校及び中高一貫コースを設置。主に専門学科「京都国際科」で進めてきたグローバル教育「Global & Aware」を、普通科教育へ広げるために、令和2年度からは京都国際科の募集を停止し普通科に一本化。特色ある普通科教育の実現に向けて挑戦している。今年で創部14年目を迎える本校吟詠剣詩舞部は、平成17年より府下唯一の部活動として誕生し、以来、京都府詩吟連盟より講師を招いて日々練習に励んでいる。全国高総文祭には、創部以来14年連続で出演。現在は中学生3名高校生12名の合計15名で活動。



★「中庸」…作者の元田東野は、この詩の中で「君に勧めたいことは、不偏中正の道を選び、行動すること、天下のあらゆることはただ一つ誠に帰するものである」と説いています。
「月下の古城」…日本各地に建てられた城は、明治維新の廃藩によりそのほとんどが取り壊しになり、今は石垣のみ昔を偲ばせてくれます。この詩も城の名前はあがっていませんが倉吉(打吹)城を詠ったものでしょう。

～歓迎プログラム～

〈箏四重奏曲〉 同志社女子高等学校 箏曲クラブ

今年創立143年を迎えた本校は、緑豊かな京都御所の北に位置する。創立者新島襄の建学の精神を継承し、キリスト教を通じて自分を見つめ、他者を尊重する心を養い、「地の塩」「世の光」として社会の各方面で活躍できる女性となることを目指す。箏曲クラブは、賛美礼拝、文化祭・バザー、京都高総文祭での演奏に向けて、日々練習に励む。また、オープンキャンパスの来場者や、アメリカのヌエバ校から来た生徒達に箏の体験を行うなど、箏に親しんでもらう活動にも取り組んでいる。平成29年度の京都高総文祭では優秀校に選ばれ、平成30年度に行われた全国高総文化祭に京都府代表として出場。



★今回演奏いたします曲は「箏四重奏曲」で、長沢勝俊の小編成曲の代表曲です。この曲は二つの楽章からなり、一章は緩、二章は急という構成となっています。箏の調絃は古典には見られない全音階で複雑な和音の変化に対応し、変拍子を用いた四パートの対話により、ダイナミックな効果をもたらしています。伝統の中から生まれた素朴で日本人の心に溶け込みやすい音楽は、多くの邦楽ファンの共感を呼んでいます。

茶道フェスティバル

～歓迎プログラム～

あきのゆうべ

〈和歌披講「秋夕」〉 京都府立鳥羽高等学校 披講研究部

本校は、「スポーツ」「伝統・文化」「グローバル」を教育活動の柱としている。日本文化の真髄に触れる独自の活動として、和歌を詠む活動を実施。生徒全員が、「和歌の家」冷泉家にお生まれになり公益財団法人冷泉家時雨亭文庫常務理事として八百年の伝統を継承保存されておられる冷泉貴実子先生の御指導のもと作歌するという貴重な経験をしている。生徒が作った代表歌を披講する歌会の開催や歌集の発行も実施。披講研究部は、年2回、春と秋に開催する歌会において、宮廷装束を身にまとい、生徒の代表歌を作法にのっとりて詠(うた)い、日本の伝統美である和歌を今に伝えている。「古典の日フォーラム2018」、今年度は「第69回全国高等学校PTA連合会京都大会アトラクション」に出演。



★披講は、和歌を朗詠することです。披講の際には、読師(どくじ)・講師(こうじ)・発声(はっせい)・講頌(こうしょう)の諸役があります。読師は、披講の座を指揮する最も重要な役です。講師は、読師が示した歌を詠み上げ、披露します。発声は合唱の先導者です。講頌は合唱する役です。今回披講します和歌は以下の三首で、昨年度本校の1年生が作歌したものの中から選ばれたものです。

- | | | |
|-----------------|-------------|------|
| ・山里の露にしをるる秋の草 | すずろ悲しき秋の夕暮れ | 八木結衣 |
| ・寺の鐘鳴りひびく山散るもみぢ | 秋の夕風ものぞ悲しき | 川面美緒 |
| ・はかなくも川に流るる紅葉葉に | 思ひを馳せる秋の夕暮れ | 山口愛理 |

全体交流会 (12月14日(土)リハーサル後)

～歓迎公演～

〈六斎踊「祇園囃子」〉 京都府立北嵯峨高等学校 郷土研究部

本校は京都市の西北に位置し、周囲を嵯峨・嵐山の名勝地に囲まれた風光明媚な環境の中にある。昭和50年に創立され、「独創質実」を校是としており、勉学と部活動の双方で活躍する生徒が多く見られる。全国大会への出場経験のある部活動も多く、活気に満ちている。開校2年目に創部された郷土研究部は、地域の歴史・文化を学ぶとともに、京都の伝統芸能の継承にも取り組んでいる。特に平成16年度からは「六斎踊」を保存会の皆様に指導していただいて学ぶ活動を開始し、平成18年度には全国高総文祭京都大会への出場や中国・西安市への親善訪問を実施。その他、老人施設等への慰問公演も行っている。



★「六斎踊」は、遠く平安時代に起源があると伝えられる宗教的芸能「六斎念仏」の中に、江戸時代になってから長唄・狂言・獅子舞など様々な芸能が取り込まれていって成立した京都の庶民的な郷土芸能です。今回上演する演目「祇園囃子」は、祇園祭の函谷鉦のお囃子を六斎踊の中に取り入れてアレンジしたもので、篠笛・鉦の伴奏にあわせて太鼓の踊り打ちが繰り広げられ、さらに赤い「しゃぐま」を付けた棒振りが登場して、厄除け祈願に棒を振り回します。

郷土芸能(伝承系)

かすがりゅうはなのうししおどり

〈春日流花農鹿踊〉 岩手県立花巻農業高等学校 鹿踊部

本校は、明治40年に創立され、詩人で童話作家の宮沢賢治が教鞭を執ったことで知られており、賢治が在職中に作った「精神歌」を歌い継いでいる。校是は「農で学び 農で育ち 農で生きる」。鹿踊部は、花巻市東和町「春日流落合鹿踊保存会」の御指導を仰いで始まり、創設61年目。昨年度は、歴代部員念願の全国高総文祭優秀校東京公演に出演。毎年、地元の祭りや老人施設の慰問など年間約30回の公演を行っている。9月に行われる「花巻まつり」は、20を超える鹿踊の団体が路上で競演し迫力があり、落合鹿踊保存会と共に参加している。



【全国高総文祭での成績(過去3年間)】

郷土芸能部門 最優秀賞・文部科学大臣賞 (H30)

★鹿踊は、鹿の供養から始まり、五穀豊穡と天下泰平への祈願が舞踏化された芸能といわれています。竹に幣束を巻いた長さ2.4mの「ささら」を背負い、総重量15kg程ある装束を身に付け、太鼓を打ち鳴らし、頭(かしら)を振りながら謡い踊ります。仲立ちと呼ばれる中央の雄鹿の合図で群れの動作は変わります。

なんすうししまい

ふくしゅうりゅうまい

りゅうしだん

〈南獅子舞・福州龍舞〉 神戸市立神港橘高等学校 龍獅團

伝統ある神港高等学校と兵庫商業高等学校を再編・統合して設置された高校。生徒会が、神戸市地域無形民俗文化財に指定されている南京町の「春節祭」に着目し、文化祭で披露して以来、特色部として活動。神戸の伝統芸能を青少年の教育・育成に生かし、先人から受け継いだ技術と伝統を守り、阪神・淡路大震災以降、南京町での行事には毎年出演している。シンガポール・マレーシアで開催された龍舞の国際大会で、シンガポール大会3位、マレーシア大会2位の成績を収めた。神戸南京町の中秋節・春節祭の他、県外からの出演依頼もあるなど、幅広く活動。老人保健施設慰問等にも取り組む。



【全国高総文祭での成績(過去3年間)】

郷土芸能部門 出場 (H30)

優秀賞・文化庁長官賞 (H28)

★獅子舞は、中国南方系の獅子舞で主に祭りや祝い事などで披露します。龍舞は九人一組で滑かなラインやアクロバティックな動きを表現します。また、獅子や龍の鼓動を表す太鼓の音やたくさんの珍しい楽器も見どころです。楽しむことを忘れず、最後まで笑顔で会場を私たちのパワーで包み込みます。見ている方々の目や心に深く残るような、印象的な演技となるよう頑張ります。

〈八重山芸能「今日が日ば 黄金日ば」〉

沖縄県立八重山高等学校 郷土芸能部

日本の最南端沖縄県八重山諸島石垣島にある普通科の高校で、「師弟同行」の校是のもと約700人の生徒が学ぶ。郷土芸能部は、創部56年部員数35名からなり、過去には、国立劇場公演にも出演するなど伝統ある部活動である。「心からの笑顔」を合言葉に、地域や保護者の皆さんに感謝しながら、郷土芸能に取り組む。全国高総文祭では、過去、文部科学大臣賞を受賞、その他、八重山郡内・沖縄県内の地域行事やイベントへ多数出演するなど活躍。



【全国高総文祭での成績(過去3年間)】

郷土芸能部門 優良賞 (H30)

出場 (H29)

★「今日が日ば、黄金日ば」は今日の日は最高の日だという意味で、沖縄県竹富町黒島で唄われている歌詞によく出てくる言葉です。黒島保里村の民俗芸能で構成された舞踊「笠おどり・コームッサー・黒島口説・正月ユンタ」を披露いたします。

「心からの笑顔」をモットーに元気いっぱい努め、この舞台で唄い踊れることへの感謝の気持ちを込めて表現します。

〈肥後民謡(おてもやん・田原坂・山鹿灯籠)〉

熊本県立鹿本農業高等学校 郷土芸能伝承部

九州のおへそ、熊本県の北部に位置する山鹿市に位置し、106年の歴史ある高校。菊池川が流れ、東には阿蘇の雄大な山々がそびえる平野で、4学科が専門的な学習に励む。郷土芸能伝承部は、創部32年の部活で、近年では、東京ドームや東北3県、タイ王国への遠征など、県内外、国外の公演も実施。くまもと県民文化賞受賞、全国高文祭には8回出場(文化庁長官賞の受賞歴あり。)、民謡民舞全国大会に出演、国立療養所菊池恵楓園に25年連続出演、ふるさとまつり3年連続出演するなど活躍。また、日韓おまつり、全国邦楽コンクール、日本最古の山城まつり、高知よさこいまつり、日本財団ソロプチミスト表彰、日立郷土芸能大祭、FFTタイ交流、その他県内外のおまつり、式典に出演、地元老人ホームへの慰問など、年30～40回の舞台に積極的に取り組んでいる。



【全国高総文祭での成績(過去3年間)】

出場なし

★火の国熊本に伝わる3曲の民謡を披露します。演じるのは、熊本の女性を象徴する人物「おてもやん」、国内最後の内紛・西南戦争より「田原坂」、そして地元・山鹿市の芸能「山鹿灯籠」です。頭上に掲げる和紙と糊だけで作られた繊細な紙細工、灯籠の美しさもご覧頂ければと思います。

熊本地震から3年以上が経ちました。多くの建物や皆の心は、深く傷つきましたが、日頃から、県民の皆様へ僅かずつでも元気になって頂こうと、交流や集いもしています。今回も、熊本の魅力を存分にPRしたいです。

郷土芸能(和太鼓)

わじまたいさい

〈輪島大祭〉 石川県立輪島高等学校 和太鼓部

本校は、自然豊かで人情にあふれる輪島市に大正12年に設置され、今年で創立96年を迎える。能登北部中等教育の拠点校として、その伝統を築き上げ、多くの生徒がさらなる飛躍を目指し文武両道に励んでいる。和太鼓部は今年で創部9年目を迎え、主に学校行事や地域のイベントに出演、全国高校生太鼓甲子園に参加するなど「明るく元気に」をモットーに積極的に活動している。高総文祭等の大会出場、その他地域のイベントに多数出演している。



【全国高総文祭での成績(過去3年間)】

郷土芸能部門 優秀賞・文化庁長官賞 (H30)

★「輪島大祭」は、晩夏を彩る四つの祭りの総称で、古くから輪島に伝わり、キリコ(奉燈)祭で打ち鳴らされてきた道中囃子と止まり太鼓を舞台用にアレンジしたものです。「輪島大祭」のむせかえるような熱気を高校生らしく元気一杯に表現しますので、能登輪島のお祭りの雰囲気を感じていただければ幸いです。

日本音楽

〈箏曲「三つのフェスタルバラード」〉

名古屋市立菊里高等学校 箏曲部

名古屋市の東山動植物園に隣接する緑豊かな学校で、明治29年創立の伝統校。普通科と音楽科があり、自主自律の教育目標のもと、文武両道を目指しながら勉強と部活動の両立に力を入れている。箏曲部も練習計画を生徒が自分達で決め、部員が自主的に活動をしている。平成14年から平成30年までに16回全国高総文祭に出場。その他、名古屋市教育祭、校内の各種演奏会、周辺地域の施設とコラボした演奏会や文化劇場のイベントなどに参加。



【全国高総文祭での成績(過去3年間)】

日本音楽部門 優良賞 (H30)

文化庁長官賞 (H29)

出場 (H28)

★十三絃の4つのパートと十七絃が奏でるメロディが幾重にも重なり、力強いダイナミックな旋律と落ち着いた穏やかな旋律が展開する、物語のような美しい曲想です。私たちは、三つの異なる章を生き生きとした音色で表現できるよう、様々な技法を丁寧に積み上げてきました。とりわけ最後の盛り上がり、緻密かつ壮大な大合奏になるよう、心を一つにして演奏します。

〈箏曲「琉球民謡による組曲」〉

関西創価高等学校 箏曲部

万葉の故郷、大阪府交野市にある本校は、開校当時から「他人の不幸の上に自分の幸福を築くことはしない」との信条のもと、人生と社会に価値を創造しゆく世界市民の育成を目指している。

また平成27年度に文部科学省よりSGH(スーパーグローバルハイスクール)に認定され、生徒一人ひとりが教養と豊かな国際感覚を身に付けている。全国高総文祭には平成14年から18年連続18回出場し、文化庁長官賞や優良賞を13回受賞、優秀校東京公演は9回出演。その他海外からの来校者・お客様への歓迎演奏、地域交流の場である桜まつり・オープンキャンパスでの演奏など行っている。



【全国高総文祭での成績(過去3年間)】

日本音楽部門 文化庁長官賞 (H28,H30)

優良賞 (H29)

★この曲は琉球の代表的な民謡である安里屋ユンタと八重山地方に古くから伝わる哀愁ある旋律「トバルマ」を素材とし作曲された幻想曲風な組曲です。曲が持つ世界観を大切に、高校生ならではのダイナミックで心弾む音楽をお楽しみいただければと思います。

吟詠剣詩舞部門

はがくれ

〈構成吟「葉隠」〉

佐賀県高等学校文化連盟 吟詠剣詩舞専門部

本専門部は平成28年に発足。それまで個人で吟詠や詩舞を習っていた高校生はいたが、佐賀県ではこの年から高校の文化活動の一つとして取り組み始め、致遠館高校には吟詠剣詩舞同好会ができ、吟詠や剣舞に取り組む高校生が増加した。校内の文化祭での発表をはじめ、平成29年には佐賀県高文連総合開会式で発表した。また、高校生だけの大会を毎年11月に開催。全国高総文祭には平成28年度から連続出場している。本フェスティバルでは、県内3校の生徒による合同チームで公演。



【全国高総文祭での成績(過去3年間)】

吟詠剣詩舞部門 出場 (H28,H29,H30)

★「葉隠」は人の生き方について述べた書であり、その神髄は、人のためになることをせよ、です。最後の演目は佐賀の儒学者草場佩川の漢詩で、彼は学問を山登りに例え、学んでいけば新たに広がる景色を見ることができる、と述べています。彼の教えを受けた大隈重信や副島種臣は幕末維新で活躍します。佐賀県チームの主体は高校入学後に部活動として吟詠や剣舞の練習を始めた生徒たちです。一生懸命練習してきた成果を披露します。